

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月24日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究C

研究期間：2009～2011

課題番号：21530150

研究課題名（和文）人種問題と日・英米の国際関係—白人優位主義とアジア主義をめぐって—

研究課題名（英文）Racial questions and Anglo & US-Japan relations, Debates over the White superiority network and Pan-Asianism

研究代表者 松本 佐保 (MATSUMOTO SAHO)

名古屋市立大学・人間文化研究科・准教授

研究者番号：40326161

研究成果の概要（和文）：

本研究課題は国際関係史を文化的側面から研究する最近の動向を踏まえたものであり、具体的にはカナダ、オーストラリア、アメリカ合衆国における日系移民問題を、国際関係論の枠組みで歴史的に分析することを目的とし、移民問題が外交や軍事政策に及ぼした影響を明らかにした。移民や人種問題は従来国内問題として扱われてきたが、本研究ではこれらのテーマを国際関係や軍事的・戦略的研究としてとらえる点が、新しい研究方法論を採用していると言える。

日本の学会においては戦略研究と言えは軍事研究に終始する傾向があるが、欧米の学会では戦略研究と言えは、インテリジェンスやプロパガンダなどの文化政策などの文化的側面を含む研究が近年盛んに行われてきた。日本でもようやく「戦略研究学会」が近年設立されたが、まだこの学会の主流は軍事研究であるが、少数派とは言えインテリジェンスやプロパガンダ研究など、文化的側面へのアプローチの成されるようになってきた。本研究はこうした最新の学会動向を踏まえた研究である。

具体的にはオーストラリアの白豪主義にはじまり、米国やカナダは厳しい排日移民政策をとるようになるのは、単に日系人に対する人種差別が理由ではなく、日本の台頭や大アジア主義に対する英米の脅威は、太平洋地域における日系移民の問題が「黄禍論」として表現され、政府レベルでは安全保障の問題として日系人排斥移民政策形成に至った。また一方でこうした欧米で巻き起こった「黄禍論」の言説が、日本におけるアジア主義やナショナリズムをより急進的なものへと向かわせたのかどうかという点も検討し、「白人優位主義」ネットワークとこれに対抗するアジア主義の相関関係を明らかにした。

実際の研究活動や研究成果としては収集した史料と文献を集中的に分析し、幅広い研究者との意見交換や議論で得られた知見をふまえて、学会発表をベースに論文にまとめて発表した。

日本国際政治学会2009年11月8日（神戸国際会議場）の分科会トランスナショナルで、「大英帝国と米国における白人優位主義ネットワーク—日系移民問題を中心に—」という題目で学会発表、翌年2010年9月10日にオックスフォード大学で行われた「英国国際関係史学会」では「Race and the British White Dominions, 1850-1924」というタイトルで、英連邦である白人自治領、オーストラリアやカナダにおける白人優位主義と日系移民排斥の関係を明らかにした。2011年7月にオーストラリア、パース、西オーストラリア大学で行われた「アジア太平洋・ヨーロッパ近現代史学会」では「Defending the civilization」というタイトルで、人種問題と文明論の相関関係を明らかにし、また外交史研究におけるCultural Diplomacy という新しい分野開拓となり論文、「The Cultural Diplomacy of Sir James Renell Rodd' (*On the Fringe of Diplomacy*, eds. By Fisher and Best, 2011, Ashgate, pp. 209-224) として出版された。

また「大英帝国における移民・人種問題—米国と白人自治領における白人優位主義ネットワークをめぐって」という論文が、『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容に関する研究』（東北学院大学編・2012年3月、363～380頁）に掲載され、また現在編集作業中（原稿提出済み）の論文集『アジア主義広域比較研究』（ミネルヴァ書房、全360頁、2

012年発刊予定)の一章分に「人種問題とアジア主義」という論文が掲載予定であり、これらも本科学研究費の成果である。

上述したように本研究は日本の学会における戦略研究を軍事的なアプローチのみならず、文化研究や文化戦略研究に発展させていく過程における貢献にもなるであろう。また間接的には日本の外交政策における文化戦略論にも寄与出来るのではないだろうか。

研究成果の概要 (英文) :

This research project attempts to prove that relations between racial question and security policy were closely connected. In the case of US and British White Dominions such as Australia and Canada they had formed anti-Japanese immigration law between 1901 and 1945 not only because of their racial discriminations but also because of their fear against Japan as state power. Additionally Japanese Pan-Asian movement was formed partly because of their reactions against US and British White Dominions' anti-Japanese immigration law which was believed to be legalized as the result of Yellow Peril outcry.

The research on immigration and racial questions previously had been treated as a part of domestic issues and it has rarely regarded as a part of international relations and strategic studies. Thus this research project contains new research methodology. There are a number of works written on strategic studies from cultural approach in US and UK such as intelligence and propaganda studies, however it is only very recent in Japan that the association of strategic studies was found and this kind of new approach to diplomatic history has been exercised.

I do believe, therefore, this research project is quite important contribution for development of new trend of research in Japanese academia. It is also possible to add that this research project could indirectly help to inspire that Japanese government's current public diplomacy and cultural diplomacy.

There are three conference presentations and three publications from this research project: 'White superiority network in US and British Empire' at Kobe in 2009 which was published in the Journal of European Globalization in 2012, and 'Defending the Civilizations' at University of West Australia (Perth) in 2011 which was published as chapter 9 of *On the Fringe of Diplomacy*, (eds.by Fisher and Best, 2011, Ashgate), and then 'Race and the British White Dominions at Oxford University in 2010 which is on the process of publication, one of the Chapter of the book entitled *Comparative Pan-Asiansim* (ed.by Masataka Matsuura, Minerva, forthcoming in 2012). Thus the fund has been mainly used for research trip as well as travel expenditure for conference presentations.

These publications also suggest a possibility to explore new research area, such as cultural diplomacy.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：人種、白人優位主義、アジア主義、日英関係、日米関係、英連邦、白人自治領、黄禍論

1. 研究開始当初の背景

本研究は平成18年度から3年間基盤研究Cとして受けた科学研究費「人種問題をめぐる日本と英米の外交関係—英連邦と米国における日系移民問題を中心に—」の研究過程で得た着想を基に、これをさらに発展させ、よりグローバルな視点でとらえた研究である。移民研究が社会学的分析や国内問題として従来扱われてきたのに対し、移民問題が外交や軍事政策に及ぼした影響を及ぼしたかと明らかにするものである。日本においては遅れている戦略研究の発展に寄与するものである。

2. 研究の目的

太平洋を挟んで日本と英連邦である白人自治領（カナダ、オーストラリア）・米国との間に展開した人種問題が、いかに英米の対日外交政策を決定し、やがて第二次世界大戦へとむかうことになったかを明らかにする。第二次世界大戦の起源と考える上で、従来の日米研究に偏った日本の学会の主流に対して、日英研究、しかも英国の白人自治領であるオーストラリア、カナダ、ニュージーランドを含めて多国間関係でとらえることで、戦争の起源を新しい視点から考察する。

また日本においては軍事研究が主流の戦略研究を、人種問題などの文化・社会的問題を外交史研究として位置付けることが研究目的となる。

3. 研究の方法

日本及び諸外国における同研究課題の専門家と意見交換を行い、実際には米国、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの文書館で移民や外交関係の文書の収集を行い、これらを分析し、日系移民問題が日本と英米との外交関係に及ぼした影響を及ぼしたかを明らかにする。白人と黄色人種の対立という人種的な問題は、プロパガンダ研究などの文化戦略研究にもあてはまることから、こうした研究は欧米の最新の研究方法論を採用したものである。

4. 研究成果

上記の研究成果概要と下記の論文1件、学会発表4件、共著書1件を参照のこと。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

松本佐保

「大英帝国における移民・人種問題—米国と白人自治領における白人優位主義ネットワークをめぐって」『ヨーロッパ・グローバル化と諸文化圏の変容に関する研究』（東北学院大学編・2012年3月、363～380頁）

〔学会発表〕（計4件）

1 松本佐保

「大英帝国と米国における白人優位主義ネットワーク—日系移民問題を中心に—」日本国際政治学会2009年11月8日神戸国際会議場

2 Saho Matsumoto,

'Race and the British White Dominions, 1850-1924' 「英国国際関係史学会」2010年9月10日にオックスフォード大学

3 Saho Matsumoto,

'Defending the civilization' 「アジア太平洋・ヨーロッパ近現代史学会」2011年7月パース、西オーストラリア大学

4 Saho Matsumoto,

The Yellow Peril and the Russo-Japanese

War the racial question and
Anglo-Japanese relations, 「ヨーロッパ
日本研究協会国際学会」2011年8月2
6日タリン大学 (エストニ)

〔図書〕(計1件)

On the Fringe of Diplomacy, eds. By
Fisher and Best, 2011, Ashgate (共著)
Chapter 9 is written by Saho Matsumoto

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 佐保 (Matsumoto saho)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准
教授

研究者番号:40326161